

第12回全国中学校（教科）柔道指導者研修会

第12回全国中学校（教科）柔道指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本柔道連盟、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）は令和4年1月7日から9日までの3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で講師10名と参加者29名が集まって開催された。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当初予定の10月から1月へと開催時期を延期して、募集定員の縮小や換気・消毒の徹底など、万全のコロナ対策を講じながらの実施となった。

本研修会は、中学校保健体育武道（柔道）授業の充実に向けて、柔道を専門としない中学校保健体育科教員の指導力向上に資することを目的に開催された。

開講式では、はじめに高山健全日本柔道連盟事務局長が「当連盟の一番の課題はいかにして柔道人口を増やしていくかであり、大きな危機感を感じています。中学校武道必修化は、限られた授業時間の中で、どうすれば生徒に柔道の魅力が伝わるのかが重要です。この研修会を通じて、そのヒントを得る機会としてください」と挨拶。続いて、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「中学校武道必修化の全面実施から10年が経って内容の充実期に入っています。50年後にはほとんどの日本人が武道の経験者となります。武道の素晴らしさを伝えることで日本を益々元気にするため、ともに武道必修化充実の活動を続けて参りましょう」と挨拶した。

◇ ◇

■講習1「講道館柔道・礼法」：向井幹博講師

授業の第1時限「導入」部分で指導することとなる柔道の基本的な指導内容を、映像を交えながら解説。特に、相手がいてこそ成立するという競技の特性から、礼法の重要性を説いた。

■講習2「基本的な指導」：高橋健司講師

中学校保健体育の柔道授業で指導する内容、安全面の留意点、効果的に活動するための留意

点等について説明。その後、全員で、自然体・自護体の姿勢や組み方、進退動作、崩し、体さばきの指導方法を体験した。

■講習3「教育に生かす武道の心」：田中裕之講師

講義全体を通して「なぜ柔道をやるの?」「柔道を通じて学ばせたい柔道の価値とは?」「今どきの子どもになぜ柔道?」と問い掛けから始め、参加者各自の指導に対する思いや考えを再確認させる。教育の基本は武道にも通じ、学習指導要領の狙いは柔道の「精力善用・自他共栄」と同じであると説く。最後に「柔道の価値や良さを先生なりに解釈し、生徒に学ばせるところに責任がある。そこをしっかりと考えて授業に取り組んでいただきたい」と要望した。

■講習4～9

「受け身 基礎・応用」三原史也講師

「投げ技 膝車」高橋健司講師

「投げ技 体落し」高品亮輔講師

「投げ技 大腰」濱岡睦月講師

「固め技 基礎」前瀧大吾講師

「固め技 応用」山根友樹講師

講習4～9では、地元・勝浦市立勝浦中学校の生徒17名の協力を得て実際の授業と同じ形式で、各指導方法の模擬授業が行われた。講師は全員が中学校で柔道授業を担当している現場の教員であり、日頃から工夫し実践している方法で、注意点や留意事項なども盛り込みながら、柔道が専門ではない教員にも授業現場で導入する際の参考となる授業実例が披露された。

■講習10「評価の実際」：田中講師

評価は、生徒の成績を出すこと以前に、生徒にとっては自らの学びを振り返って、次の学びへ進む機会であり、教師にとっては指導の改善に活かすための大切な機会であること。そして、授業の成果や課題、改善点を見つけるために行うものであると説明。学習指導要領に則した評価の考え方などを詳しく解説した。

模擬授業の様子（地元中学生を対象に実際の授業形式で柔道の指導実例を学ぶ）



「受け身 基礎・応用」



「投げ技 膝車」



「投げ技 体落し」：受けの生徒の恐怖心を考えて、膝立ちの状態から始める

■講習11「柔道授業の魅力を考える」：木村昌彦講師

冒頭、サッカー指導者のロジェ・ルメール氏の「我々は学ぶことをやめたときに、教えることをやめなければならない」という言葉を紹介し、あらゆることが変化し続ける現代において、指導者は学び続けることが重要であると強調。講義では、「魅力とは?」「Pros and Cons（賛否両論）」「武道の授業」「学習の成長段階」の4項目に沿って、考えるヒントとなる指導論・方法や他競技の情報などを随所に織り交ぜながら、魅力的な柔道授業について解説した。

■総括：高橋進講師

全体を振り返り、「柔道が教育に取り入れられていることの意味、意義を再確認する機会」



「投げ技 大腰」：体さばきと崩しの練習のため、教具「投げ技マイスター」を利用した指導法を実践



「固め技 基礎」



「固め技 応用」：生徒が主体的に取り組むよう「ジグゾー法」を採用し、逃れ方をグループ学習する授業を実践

「指導すべき内容、指導の原理や順序などを確認する機会。そして、指導のアプローチは千差万別であり、指導の広がりを感じる機会」と今回の研修会を総括。参加者には、「楽しい柔道授業となる個別・具体的方法は、先生方の今後の工夫次第です。これは宿題としたい」と要望し、「今回の研修会を新たな指導の第一歩にしていいただきたい」と期待を述べた。

◇ ◇

閉講式では、木村昌彦全日本柔道連盟指導者養成委員会委員長が主催者挨拶で、「今回の研修内容を持ち帰って、自分なりにかみ砕いて、どのように具体化するかが重要です。皆さんの今後の活躍を期待します」と締め括り、全日程を終了した。